平成 30 年度事業報告書

社会福祉法人大里ふくしむら

＜総　括＞

平成30年度は、介護報酬改定により医療や介護など業種間の連携強化や、重度化防止などへの加算が新設され、各事業において様々な影響を受けることとなりました。介護報酬全体としてはプラス改定でありましたが、デイサービスはマイナス改定となったため、利用者数は増加したものの収入は減少してしまいました。特養においては、報酬改定に対応するため新たな加算の算定を行いましたが、それに伴い新たな業務が発生するなど、職員の負担が増加しサービスの低下が懸念される状況となっています。他の事業においても、競争の激化や人手不足による厳しい状況が続いており、効率的な業務のためのサービス見直しは喫緊の課題となりました。

こうした中で、業務の効率化や生産性向上を図るため、ICTや介護ロボットの導入を計画し、睡眠状態などを確認できる見守りシステムや、介助者の負担軽減を目的とする移乗用介護リフトなどを新たに導入しました。上手く活用するために時間はかかりましたが、職員が効果を実感することで、業務の効率化や負担軽減につながり一定の効果を上げることが出来ました。また、保育事業への取り組みや社内規定の整備など、働き方改革への取り組みを始めた1年でもありましたが、慢性的な人手不足の中、その効果が表れるのは継続的な取り組みが必要な状況です。

社会的な環境の変化や、制度改正の影響を強く受ける1年となりましたが、激化する競争の中、利用者や地域の多様なニーズに応えられるよう、新しい時代の始まりとともに、気持ちを新たに一層努力して行きたいと思います。

＜主な事業実績＞

月	法人本部	特養・ショート	デイサービス	居宅介護支援
4月		施設運営会議 各種委員会活動 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ(月 2 回) お花見外出	施設運営会議 各種委員会活動 お花見外出	カンファレンス(随時) 寄居町ケアマネ会議
5月	決算処理 監事監査	施設運営会議 各種委員会活動 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ(月 2 回) 花ぞのだより発行	施設運営会議 各種委員会活動 運動会 グラウンドゴルフ大会	カンファレンス(随時) 寄居町ケアマネ会議 スマイルカフェ
6月	資産変更登記 現況報告提出 理事会・評議員会 (決算・事業報告) (その他諸報告)	施設運営会議 各種委員会活動 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ(月 2 回)	施設運営会議 各種委員会活動	カンファレンス(随時) 寄居町ケアマネ会議

7 月		施設運営会議 各種委員会活動 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ(月 2 回)	施設運営会議 各種委員会活動	カンファレンス(随時) 寄居町ケアマネ会議 スマイルカフェ
8 月		施設運営会議 各種委員会活動 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ(月 2 回) 夏祭り 花ぞのだより発行	施設運営会議 各種委員会活動 夏祭り	カンファレンス(随時) 寄居町ケアマネ会議
9 月		施設運営会議 各種委員会活動 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ(月 2 回) 用土地区敬老会 用土小交流事業① 利用者職員健康診断 花ぞの敬老会 消防避難訓練	施設運営会議 各種委員会活動 消防避難訓練 職員健康診断	カンファレンス(随時) 寄居町ケアマネ会議 スマイルカフェ
10 月		施設運営会議 各種委員会活動 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ(月 2 回) 日帰り旅行 花ぞのだより発行 用土小交流事業②	施設運営会議 各種委員会活動 外出行事 グラウンドゴルフ大会	カンファレンス(随時) 寄居町ケアマネ会議
11 月		施設運営会議 各種委員会活動 冬イルミネーション ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ(月 2 回) 用土小交流事業③	施設運営会議 各種委員会活動	カンファレンス(随時) 寄居町ケアマネ会議 スマイルカフェ
12 月	理事会 (第2次補正予算) (保育事業工事契約) (規定改定について) (その他諸報告)	施設運営会議 各種委員会活動 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ(月 2 回) クリスマス会 用土小交流事業④	施設運営会議 各種委員会活動 クリスマス会	カンファレンス(随時) 寄居町ケアマネ会議
1 月		施設運営会議 各種委員会活動 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ(月 2 回) 獅子舞	施設運営会議 各種委員会活動 初詣 獅子舞	カンファレンス(随時) 寄居町ケアマネ会議 スマイルカフェ
2 月		施設運営会議 各種委員会活動	施設運営会議 各種委員会活動	カンファレンス(随時) 寄居町ケアマネ会議

		カンファレンス(月 2 回) 花ぞのだより発行 職員健康診断	職員健康診断	
3 月	理事会・評議員会 (来年度予算・事業計画) (第3次補正予算) (各種規則改定について) (その他諸報告)	施設運営会議 各種委員会活動 カンファレンス(月 2 回) 消防避難訓練	施設運営会議 各種委員会活動 ひな祭り 消防避難訓練	カンファレンス(随時) 寄居町ケアマネ会議 スマイルカフェ

＜職員の状況＞

・在籍状況(平成 31 年 3 月 31 日現在／人)

	介　護	看　護	相談員	支援 専門員	管理 栄養士	その他	合　計
常勤	42	4	2	3	1	8	60
非常勤	12	1	0	1	0	16	30
合　計	54	5	2	4	1	24	90

・ 入退職状況(平成 30 年度／人)

	介　護	介護(非)	看　護	看護(非)	ケアマネ	その他	合　計
入　職	10	3	0	1	1	2	17
退　職	9	0	0	2	1	2	14

＜特別養護老人ホーム＞

特養では、看取りケアの更なる推進により、病院からの紹介による入所が増え、平均介護度も上昇して利用者の重度化が進んだ。それに伴い、利用者の状態に応じたユニットづくりを進め、ケアの統一化が図られた。それにより、前年度に比べて入院者の減少にも繋がり、稼働率も上昇した。しかし、年度末には、看取りによる退所者が増え、他施設などと連携して迅速に入所手続きを進めたものの、入所までに時間がかかってしまい空床が増える結果となってしまった。

一方、増加する介護負担の軽減と業務効率化のため、新たに導入した見守りセンサーや移乗用リフトの活用は、現場職員の意識の高まりとともに徐々に運用方法が確立され、業務の効率化に大きく役立った。さらにICTや介護ロボットの導入は人出不足対策としても効果的で、夜間帯の精神的負担を軽減し、腰痛などの職業病の予防、改善にも繋がっている。利用者にも好評で、安心して介助が受けられるとの声もあり、サービスの質の向上にもつながった。今後もロボットの活用を進めるとともに、新たな技術の導入に向けて取り組みを続けていく。

・入退所状況（人）

入所元		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	病院	1	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	2	7
	老健	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
	他施設等	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	家庭	2	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	1	8
合計		3	1	0	0	1	0	4	2	0	2	2	3	18

退所先		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
退所	病院	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	他施設等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	死亡	2	1	0	0	1	1	4	0	1	1	2	5	18
合計		2	1	0	0	1	1	4	1	1	2	2	5	20

・入所期間（平成 31 年 3 月 31 日現在／人）

	1年未満	1年～2年	2年～3年	3年～4年	4年～5年	5年以上	合計
入所中の利用者の在籍期間	12	15	14	8	5	18	72

・年齢・性別（平成 31 年 3 月 31 日現在／人）

	～64歳	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳～	合計	平均	最低	最高
男	2	0	2	3	2	0	4	13	77.6	41	97
女	1	2	2	6	9	7	32	59	87.6	59	104
合計	3	2	4	9	11	7	36	72	85		

・要介護度（平成 31 年 3 月 31 日現在／人）

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均
男	0	1	3	4	5	13	4.0
女	0	2	13	22	22	59	4.08
合計	0	3	16	26	27	72	4.06

・受入れ地域（平成 31 年 3 月 31 日現在／人）

	男	女	合計	比率
寄居町・深谷市	10	49	59	81.9%
その他県内	2	9	11	15.2%
県　外	0	2	2	2.7%
合計	12	60	72	99.8%

・入所待機者状況（人）

	平成 29 年 3 月	平成 30 年 3 月	平成 31 年 3 月
要支援 1～要介護 2	0	0	0
要介護 3 以上	25	18	23
合　計	25	18	23

・稼働状況（特養のみ／人）

H30	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
延べ人数	2209	2283	2250	2325	2304	2219	2257	2219	2266	2264	2018	2223	26837
稼働率(%)	98.2	98.2	100.0	100.0	99.1	98.6	97.1	98.6	97.5	97.4	96.1	95.6	98.0
H29	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
延べ人数	2209	2271	2208	2268	2230	2148	2236	2177	2264	2274	2012	2292	26589
稼働率(%)	98.2	97.7	98.1	97.5	95.9	95.5	96.2	96.8	97.4	97.8	95.8	98.6	97.1

＜ショートステイ＞

　ショートステイでは、前年度の稼働率低下の反動を受けて、利用者数が改善し稼働率の上昇につながった。これは、特養の空床が少ないにも関わらず、前年度の利用者数減少時に多くの新規居宅介護支援事業所からの依頼を柔軟に対応して関係づくりを図ったため、ロングステイの利用希望者の紹介が増え、増加につながったと考えられる。しかし、ショートステイ利用者の増加は、職員の負担増となり、さらに受け入れの時間にも柔軟性を持たせたため、朝、夕の食事時など忙しい時間帯の出迎え、送り出しなども増えている。利用者のニーズに応えた結果であり、利用者の増加にもつながっているため、今後も各部署が連携して柔軟な受け入れ態勢を整える必要がある。

・稼働状況（ショートのみ）

H30	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人員	14	17	16	15	15	16	15	17	20	17	17	20	199
延べ人数	158	176	159	163	178	171	156	173	234	186	182	178	2114
稼働率(%)	105.3	113.5	106.0	105.2	114.8	114.0	100.6	115.3	151.0	120.0	130.0	114.8	115.8
H29	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人員	17	21	17	15	18	21	21	14	15	16	20	16	211
延べ人数	170	192	143	136	162	186	222	151	146	143	151	172	1974
稼働率(%)	113.3	123.9	95.3	87.7	104.5	124.0	143.2	100.7	94.2	92.3	107.9	111.0	108.2

・稼働状況（全体）

H30	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
特養 延べ人数	2209	2283	2250	2325	2304	2219	2257	2219	2266	2264	2018	2223	26837
ショート 延べ人数	158	176	159	163	178	171	156	173	234	186	182	178	2114
稼働率 (%)	98.6	99.2	100.4	100.3	100.0	99.6	97.3	99.7	100.8	98.8	98.2	96.8	99.1

・要介護度（平成30年度合計／人）

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均
男	0	0	3	3	2	2	0	10	2.3
女	0	4	5	8	12	5	5	39	2.6
合計	0	4	8	11	14	7	5	49	2.58

＜委員会活動等＞

・褥瘡感染症対策委員会

平成30年度は、報酬改定に伴う褥瘡マネジメント加算の算定を始めたが、業務負担の増加により本来の介護、看護業務に支障が出たため、年度途中で算定を中断し早期発見及び治療に各職種が全力で取り組んできた。結果、前年度当初7名の褥瘡者が2名に減少するまでに至った。引き続き、多職種間の連携を図りながら予防と治療に取り組んでいく。

また、感染症対策については、前年度に引き続き現場に基づく感染症対策を継続した。それに加え、消毒や加湿対策など、新製品などの情報収集を積極的に行い、インフルエンザの利用者発症を0名に抑えることができた。利用者の重度化に伴い、感染症のリ

スクが更に高まる中、今後も気を緩めずに徹底した対応を続けたい。

・広報委員会

年４回の施設広報誌「花ぞのだより」を発行し、利用者、家族、関係機関など幅広く配布して施設内活動の広報を行った。また、発行時期に応じて介護保険に関する制度改正や、手続きのご案内なども行いご家族への情報提供を積極的に実施した。また、施設 PR や情報公表を広範囲に発信すべく、ホームページのリニューアルを計画し、翌年度に繰り越して新規ホームページを開設する。

・安全対策委員会

安全対策業務の効率化のため、ひやりはっとの報告を簡易にし、報告漏れのないようにするとともに、内容によっては多職種間でのミーティングを行うなどの見直しを図った。また、介護ロボットの導入に伴う事故防止のため、新たなマニュアル作成や研修の実施などロボット部会と協力して環境整備を行った。

・機能訓練委員会

個別機能訓練の充実のため、居室内での関節可動域訓練の実施を積極的に取り組み、平成30年度から日課として始めている口腔体操なども毎日実施し、機能訓練の実施率が向上した。

・身体拘束廃止委員会

定期的な身体拘束の廃止または見直しの取り組みを続けたほか、職員の意識向上のため、職員をモデルとした身体拘束体験や事例発表など研修を行った。拘束体験では、現場で長時間体験するなど利用者の側に立つことを体験し、改めて利用者の気持ちに寄り添うきっかけとなった。それに伴い、身体拘束実施者も、平成 30 年度当初、１３名であったのがユニット毎に安全性やご家族の意向を踏まえて見直しを続け、年度末には７名まで減少した。今後も定期的なケアの振り返りや研修などを通して利用者の目線に立ったケアを目指していく。

・行事レク委員会

利用者の状態に応じた外出（散歩）などを実施した。外食が楽しめる方には、外出先での食事の機会をつくり、屋外へ出ることが困難な方には、施設内でのボランティア慰問を積極的に活用して、日々の生活の中で楽しみを持っていただけるように取り組んだ。

＜デイサービス＞

デイサービスでは、介護報酬改定によりマイナス改定となり、利用者数が増えたにも関わらず減収となった。それを受け新規利用者獲得に向け、町内に限らず周辺地域の居宅介護支援事業所へ積極的にアプローチした結果、昨年度に比べ利用者数

の増加につながった。また、競争が激しい通所介護事業において特色を強めるため、グラウンドゴルフの実施や、マッサージ器・足湯といった機器を導入して、利用者や担当するケアマネジャーにもＰＲし、他のデイサービスに負けない特色と、サービスの見直しを図った。一方、利用者の傾向として、町内からの利用が全体の９割を超えているが、独居利用者や家族が遠方であるケースも増えている。そのため、地域の見守りをはじめとする、本来のデイサービス業務外の支援の必要性が高まっており、利用者の確保や地域福祉の向上のためにもより地域に根差した事業所づくりを検討する必要がある。

・利用実績

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
延べ人数	563	603	611	631	655	578	615	593	579	549	531	610	7118
営業日数	25	27	26	26	27	25	27	26	25	25	24	26	309
1 日平均	22.5	22.3	23.5	24.2	24.2	23.1	22.7	22.8	23.1	21.9	22.1	23.4	23.0

・要介護度（平成 31 年 3 月 31 日現在／人）

	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
男	1	2	9	5	8	0	0	25
女	3	5	23	10	8	3	4	56
合計	4	7	32	15	16	3	4	81

・年齢別（平成 31 年 3 月 31 日現在／人）

	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	合計
男	0	0	1	4	9	5	6	25
女	0	0	2	4	7	17	26	56
合計	0	0	3	8	16	22	32	81

・地域別（平成 31 年 3 月 31 日現在／人）

	寄居町		深谷市	美里町	その他	合計
	用土地区	その他				
利用者数	41	34	4	1	1	81

＜居宅介護支援センター＞

居宅介護支援事業は、昨年度に比べ利用者の増加がみられた。また、介護度による割合としては要介護5など重度の方が減少し、軽度の方が増加した。これは、サ高住などに入居する利用者が増えたことが影響している。また、平成30年度は困難事例などにより町や警察など関係機関と連携し、積極的な支援を行っていくなど地域の役割を果たすことが出来た。これにより、現在も地域包括支援センターからの新規利用者相談が続き関係機関との良好な関係を維持することができている。

・要介護度（平成 31 年 3 月 31 日現在／人）

	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
男	2	2	7	5	6	1	1	24
女	5	10	23	8	7	4	3	60
合計	7	12	30	13	13	5	4	84

＜地域貢献事業の実施＞

平成30年度より、地域の認知症高齢者およびそのご家族へ向けた交流の場「オレンジカフェ」を、「スマイルカフェ」として名称を変えてスタートし、特養介護職員や近隣事業所のスタッフが中心となって企画、実施した。寄居町役場をはじめ、関係機関での広報活動も行っているが、地域の方の来場はまだまだ少数であり、来場者の大半は施設及び協力施設の利用者であった。今年度は、内容を計画的に準備するとともに、地域の抱える課題解決に向けた取り組みなど、地域福祉の向上につながる取り組みにつなげて、来場者を増やしていきたい。

＜ボランティア受入れ＞

ボランティアの受け入れについては、施設行事およびデイサービスでの定期的なボランティア慰問を協力施設と連携し、慰問機会をお互いに利用しながら、ボランティアをする側、受ける側が共に賑やかに楽しめるように実施することができた。平成30年度も、慰問以外のボランティアを受け入れることができなかった(希望者がいなかったため)が、学生の実習生受け入れなどをきっかけとした大学新卒生の採用にいたるなど、地域の学生との交流が実を結ぶ結果が続いている。引き続き、地域活性化につながるよう、ボランティア団体の発表機会を提供するとともに、学校関係との協力関係をよりいっそう強固にしていく必要がある。

・中学生ボランティア体験（寄居中学校など 4 名）
・用土小学校5年生定期交流（30 名：計 4 回）および運動会、6年生を送る会への出席
・お話ボランティア　虹の会（毎月第1火曜）

・ボランティア慰問
（あゆみ幼児園、ヘモレレフラスタジオ、フォークダンススマイル、尺八、民謡愛好会、玉淀園、和太鼓集団「響」、なっちゃんとゆかいな仲間たち、ト音キーズ）

＜研修事業＞
・外部研修

	研修名	参加者	主催	場所
4 月	苦情解決セミナー	相談員	県社協	彩の国すこやかプラザ
5 月	新任職員研修	介護職員	県社協	彩の国すこやかプラザ
	中堅職員研修	介護職員	県社協	彩の国すこやかプラザ
6 月	チームリーダー研修	ユニットリーダー	県社協	彩の国すこやかプラザ
	褥瘡ケア研修	介護・看護	小川赤十字病院	小川赤十字病院
7 月	摂食嚥下研修	管理栄養士	県社協	彩の国すこやかプラザ
	介護支援専門員研修	介護支援専門員	県社協	建産連研修センター
8 月	メンタルヘルス研修	生活相談員	県社協	彩の国すこやかプラザ
	感染症基礎研修	看護職員	県社協	さいたま共済会館
9 月	摂食・嚥下研修会	管理栄養士	熊谷保健所	熊谷地方庁舎
	口腔ケア研修	介護職員	医療法人康寧会	花ぞの施設内
	ターミナルケア研修	介護職員	県社協	埼玉教育会館
10 月	看護職員研修	介護職員	県社協	彩の国すこやかプラザ
	認知症介護基礎研修	介護職員	県社協	さいたま市文化センター
11 月	認定調査員現任研修	介護支援専門員	県福祉部高齢介護課	彩の国すこやかプラザ
12 月	中堅フォローアップ研修	介護職員	県社協	彩の国すこやかプラザ
	事務員研修	事務員	ストレスチェック制度	農業共済会館
1 月	新任職員フォローアップ研修	介護職員	老施協	彩の国すこやかプラザ
2 月	非常災害時研修	課長	県社協	彩の国すこやかプラザ
	生活相談員研修	相談員	老施協	さいたま市文化センター

・内部研修

	研修名	対象者	内容
4 月	新入職員研修	新入職員	法人理念他、体制や心構えについて
	認知症介護研修	全職員	認知症に関する基礎知識
5 月	接遇マナー研修	初級職員	リーダー級職員によるマナー研修
	コミュニケーション研修	介護職員	職員間連携、チームプレイについて
6 月	身体拘束廃止研修	介護職員	身体拘束の見直し及び廃止について
	運転研修	ドライバー職員	運転技術の確認と事例検討
	リスクマネジメント研修	介護・看護職員	事故分析と管理について
7 月	急変時対応研修	介護・看護職員	急変時の対応と責任ある行動について
	褥瘡予防研修会	介護・看護職員	褥瘡予防対策とケアについて
8 月	機能訓練研修	介護・看護職員	立位・移乗動作訓練について
	喀痰吸引研修	夜勤職員	喀痰吸引業務手順・注意事項
9 月	感染症・食中毒研修	介護・看護職員	感染症予防全般について
	防災訓練	全職員	通報・避難・消火訓練
10 月	認知症介護研修	介護・看護職員	認知症ケアに伴う対応について
	運転研修	ドライバー職員	運転技術の確認と事例検討
11 月	感染症対策研修Ⅰ	全職員	感染症対策（インフルエンザ）について
	リスクマネジメント研修	介護・看護職員	入浴について
12 月	感染症対策研修Ⅱ	全職員	感染症対策（ノロウイルスについて）
1 月	機能訓練研修	介護・看護職員	関節可動域訓練について
	感染症対策研修	全職員	感染症対策実施状況確認と見直し
2 月	身体拘束廃止研修	介護職員	身体拘束廃止について
3 月	防災訓練	全職員	通報・避難・消火訓練